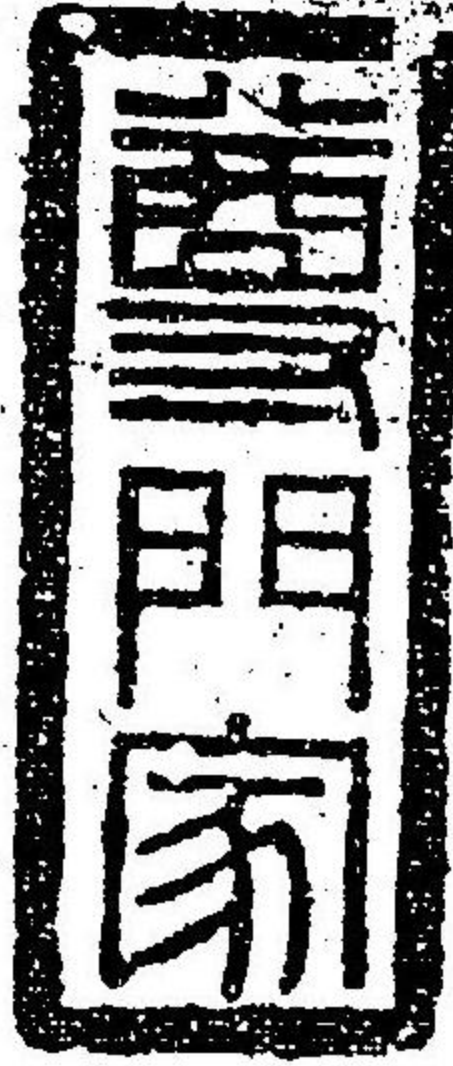
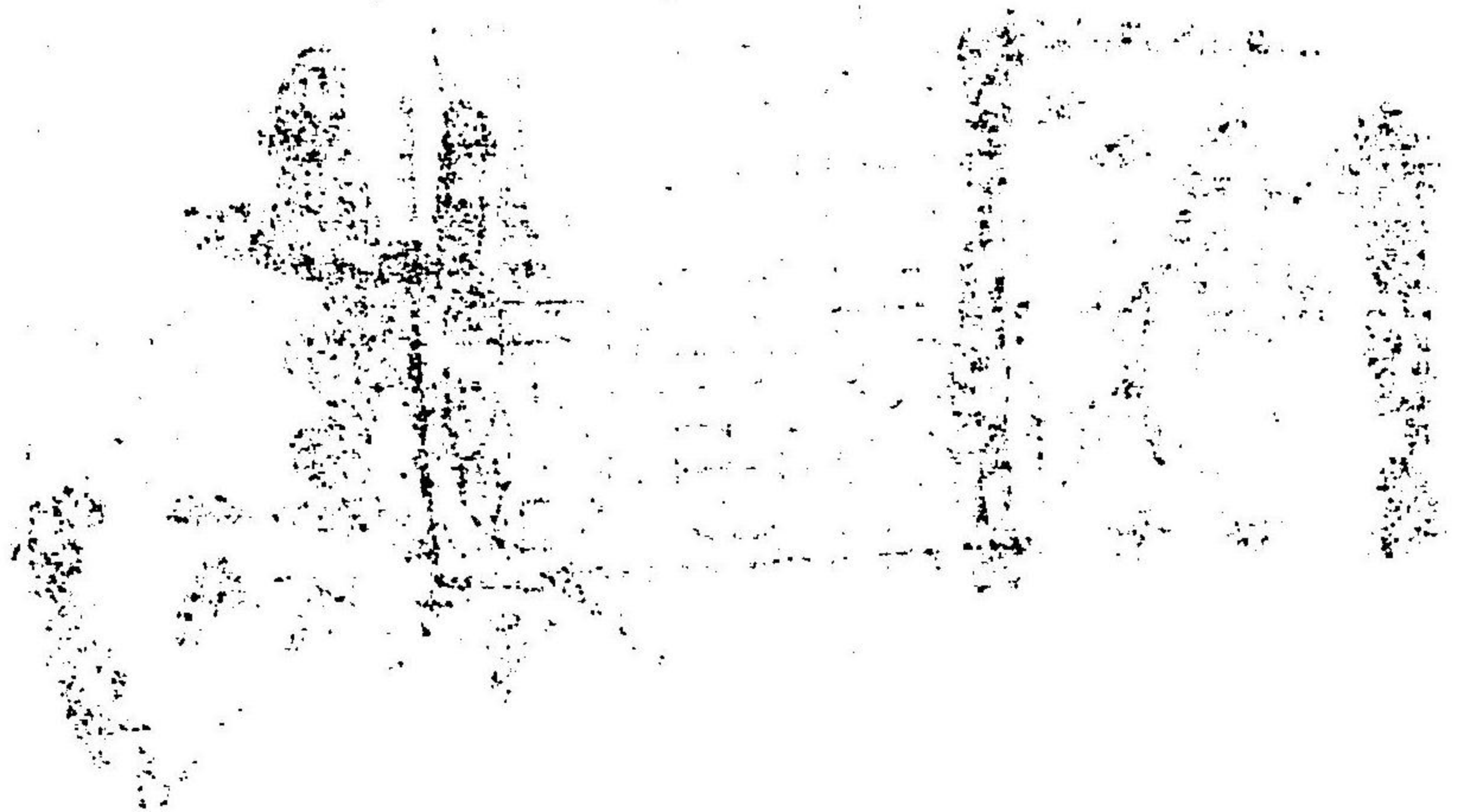
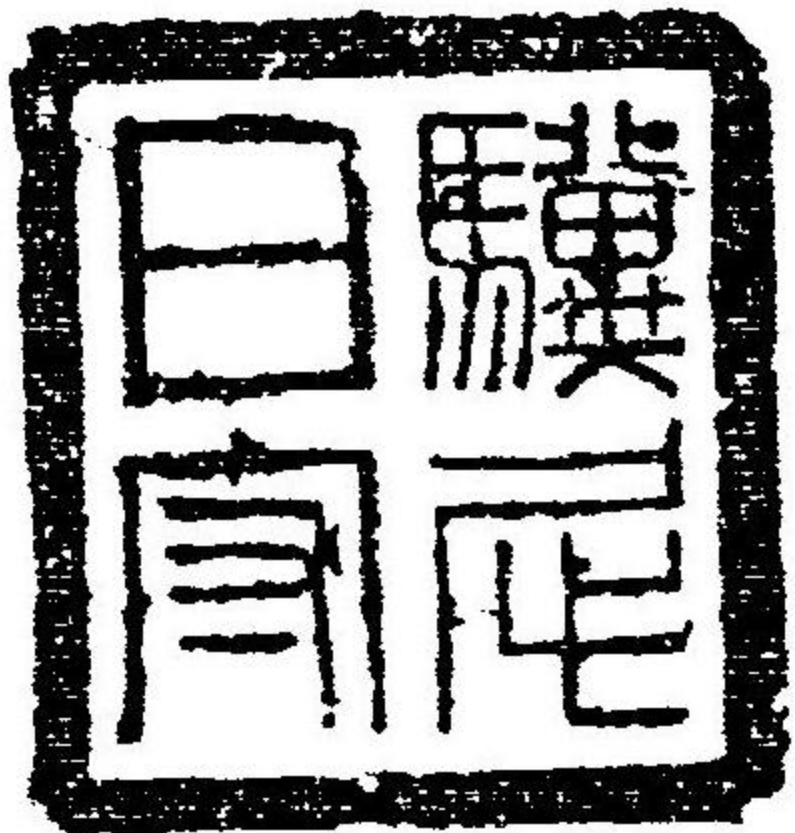


特 67
404



國為

家



聖人の物語初編目録

第一章

●日本國の文化に其助力を與ふる其人は三世了達の聖人一人あり

第二章

●宗教家の度胸が先つ居わつて國災平治の方針も定まるあり

第三章

●天地國土の災禍頻繁あるハ文化の邪魔かり神佛の加護の見えさるハ宗教の隠没よ起因す

第四章

●聖人出現の實地を語る

此册子觀讀の諸君に告ぐ

夫れ人の身體の病難を治するにハ醫師か良藥要用たれども物轉じて天地國家の災天病難をは退治するにハ人術のくすりは能あることなふして他は天文地理學及び哲學等の學術も未曾てこの國災病愈治にその妙用ありといふことを聽かされは甚難あることを知るに似たり希くハ國人一般の難病退治の思想を一途に出て愈治せしめさるかぎり我國家の文化十分たらざるを知るものゝ如し蓋

し聖人か意見を取て今爰にその論究を試み此書の初貳參編を以て社會の人に相談を遂げんと欲つす我國家をおもふ人の宜しく名聞を捨去してこの編の義論をハ始中終閱覽ありたり

聖人の物語初編序

今の世ハ賢劫理發頗ふる日々増して何のある事をも智力では出来ざるまき程に人文か昇進せしにも抱わらず一方にハ親たりみる自他の難件天地國災をハ社會の人衆が重大とせず此を視ざるの風体の如きハ大ひに人文の闕けたる状況にして破國の基ひともいふべき大事なれハ短き此論理を書初めたりそれについてハ先づ世の宗教のら論して淺きよて論理を深きに及ぼさんとす

本地の聖人が今時の世をは無教世と告げられたるか宜へあるかなや佛教ハ封建政の時勢よ比してハ今日の有形まわ殆んど日々衰廢の姿を形はせしが如しおれにつけてハ深き子細のあることにて一朝一夕にハ世の人に示されぬ事情もあることなれハ初編貳編三編と逐て詳に告んとおもいて今爰にその初編を興したるなり

抑も今の世となつては皆人の忙しくあつて何かなる難有説教も法話を聞く暇まもなき

程にあてて猶史に佛敎の冊子本なんとは熟誦してその道をわゆるいとまき成行きにて是非あく年々歳々月々日々に信敎の人を減じて稍佛敎は隱没の實形を見るもの、如し斯ある時節なれは此冊子とても觀る人あることあきを知つ、も自然や見聞する有縁の人なきよしもあらばとれも亦眞實國家をたもふ餘の編著し以て無敎世の有縁の人若くは無縁の人等には是を告しむ讀む人あつてよの冊子の意を誤解し亦と僻見してこれを慢かりと怪しむなかれ却説此冊子を聖人の物語りと題せり其意は今也我國既に文化の歩を進め萬無量美善を凝らせる時なるにも抱らす國家に取て一大事たる宗敎の戒定惠の三學乘か不完全爲めに人智を開達せしむるに實地足らざる處山々ありて未だ眞顯開化に届くこと遠きを知るといへとも之を國家に告んとするの道を未だ獲ざれて彌て國家の不幸を懷ひ甚しくも是を憂ふるの餘り天下の人に訴へんと欲するにつけては免角は三世了達の聖人を先達として宣へさるへからす爰のゆゑは即此書を聖人の物語りと名義を付かり讀者へ此の書始中終洩さすして熟了を請ふ却説現世の人

には是非くよの三世了達の聖人か必要なることを敎告せずんはあらさること十分にあるとすそは曰く先づ第一は現無敎世の人智を維持するに聖人の談話でなくんは世黠智を平等に直ふすること能わす而ふして亦國家の文化もこの聖人を後見し立すんはあらず若しからされは自今文化漸進の度を失するの恐なきことを保せよとおもふがゆゑなり此等の大ひなる先見は常に障子一枚向きが見得兼ねる凡夫か肉眼力には迎も届かぬ次第なり此故に今日は免角もよの聖人に我國の世持を委託して置きて人間の作々發々の振舞をなすことが便利策あるにわ相違なく争を以て必ず此聖人が要ありといふ意味の茲にありといふなり今豫めその聖人が國家の肝要たるを證するため其神通威力を一二註しおきて本文に入りてはその意を含み章々段々聖人の緊急を告ぐへしといふ其れ世人皆知るか聖人の物に凝滞せず能く世と移ると矣古人の謂ひしが如く普通世諦の聖人に於てすら良く世を治め亦その國家人をして安悦せしむるなり況や今爰に要求する聖人の如きは世諦聖人よへ似るへくもあらばそれ

超勝すること比喩も音ならず完師弟を明知するものなり此等の因縁を以てのゆゑに此
聖人を鄭重となし此冊子談話の主とせるものなり觀者よれを喜び怪しむ玉ふまぐの
可あり

抑も本地聖人と左の神力秘密を應用し玉へり

●聖人は能世を闡く

●聖人は能國家の萬難を除却す

●聖人は能世代を治む

●聖人は能人智を進ましむ

●聖人は能自利他を完ふす

●聖人は能三世を明教す

●聖人は能慈悲仁讓を垂れ真俗二諦道を照明す

●聖人は能一切衆生に結約す

●聖人は能出世に居りて世間を知て豫言明正なり

●聖人は能物の能所を混せず其實相を明示す

●聖人は能人位の本迹を嚴重に明示す

●聖人は能實理に安住して出沒自在を施示す

●聖人は能斷德智德恩德に圓具し顯冥に利益す

●聖人は能十界三種世間とに偏布し以て實相に亘る

●聖人は能種熟脫三等に衆生を分別し以て普等の成果を獲らしむ

●聖人は能有情の實相成佛を證せしむ

●聖人は能無量劫乃往に於て十界の分段變易生死を極めて心理經驗に富めり

●聖人は能衆生をして無偏無黨の實理を誘引して第一義諦の満足を與ふ

●聖人は能世々番々を守りて無窮の救世主あり

●聖人は能無作の實相を十法界衆に遍即す

●聖人の能無虚妄の相を世々に顯示す

以上列擧する能徳の聖人か修徳究竟にして三世九世常住の約束かれと異動あり故に現世日本國をして文明にふさしむるにと此聖人を有縁甚厚の教主と唱ふあり宜へあるかなや文證現證道理の三個具足して誣ゆへからず

因みにいふ彼他教にいへる天帝祖神亦ハ造物主おんとの妄愚の類にあらざることをその位を鑑みて比較をいふべからずと云ふ此一段を證する聖人と我國世々衆生をして大ひに利益を與へ衆の心をして悦可せしむるに足れりとす曾て文字言語を以て知易のらす章々段々始中終を試みて其不可思議の色香美味を瞭すへしと爾云ふ

明治三十三年九月

編者識

第一章

●日本國の文化に助力を與ふる其人ハ三世了達の聖人一人あり

抑も聖人の天理より出沒する自在の身なり即ち天理より活六根を備へて出現する人といふへし此人ハ自在に天理を事行する威力ありゆゑに此問題にと此聖人を高尚に掲稱したる意味を知るへし

苟も日本の文明開化益々漸進を願ふ人と近年近日に至るまでの天地災天數難其不祥あるを退治せんことを欲して彼三世了達の聖人にその助力を乞ひ専らその施策を勤むへし是を第一の國家人に取つての文明開化といわんや倚頼みるに明治以來天地國家の不祥諸難ハ稱計すへからず今假りにその現難を計ふれと左の如し

●大地震毎々

●津浪

●洪水毎年

●山崩 噴火 土地變動

●水災年々

●風災年々非時

●暴風暴雨時々

●疫病變病種々

●天產地産不如意種々

●四季不順年々

●冬雨夏雪氷霜霜霰非時降

●天火地火鬼火人火等時々

●戰爭人亡

●土地沾渴無水乾魃多端

並舉する不祥の難は新聞紙上にて見へたれハ國人一般に知見する所にして皆以て前代

未聞の凶瑞とするなり如是き災禍に懸りて國家人の潰滅し損亡の害を被たる其夥しきは口舌の届かざる處なり算數譬喩も能わさるか如き驚歎も音あらずといわん哉然りと
いへども國人一般恐怖の色もなく唯一は天然あり自然なりと臆念して平氣に居せり世
はそれ澆季よ及ひたるや疑も一人ハそれ痴魔に侵されしや不審のし惟みれハ實に感泣
の情況といわざるを獲んや今日は我身の上へ明日ハ人の身の上なれハ國家のため災難
治術の策を講せざるへらさるよも抱わらず其身に懸り來ぬかぎりわ投げやりの姿
よて唯其の弱きものは倒れ時て災難に打れたるものと特り其人の不幸に歸せりといわ
んか如き實地愍然に陥入れやといわさるへけんや若し聖人世にあつてその有形をいわ
しめは何んとかいわん果して五濁亂漫といわんか究めて國家の難病といふへき成行な
り記者勤めていわん其れ國家をおもふ人何事を拵きても急き國災を避くへき籌策最第
一の肝心也といふ天下の人感あらん哉彼の遠き慮でなければ近き憂へあぞと現事の國
災を小事として退治もなさず忽せに拵くときハ連々此上に難を重ねて終ひにハ防禦し

がたき恐れあらんことを案してなり蓋し聖人が格言を以て監定するに人術を以て此治術の届のさるへー深きおもいなくんはあらず此時は前面より三世了達の聖人が不可思議の神力を借用せざれば叶ふへからず此聖人は容易しく我國の現難を救ふべき人かや然ふしてその取扱ふ人は必竟して日本國の現佛教者十二宗三十六派其學者君子達が奮迅力にあててす果してこの難事を遂成することは日本佛教の實力にあて爰を以て社會の人衆は務めてこの事業を十二宗三十六派聖者君子に請求あてたく望處なり誠に國家の一大急用にあて件て述證せし如き國災を退治して始めて世の鎮靜を知り尋ひて真顯の文化を觀るものこす此順序を國人一般知覺せざるへからず是れ聖人の物語とす此奥は次編に護る

第 貳 章

●宗教家の度胸か先つ居わつて國災平治の方針も定まるや
それ佛教の釋迦一人のものにあらす社會のも乃や日本佛教者一般にその度胸を居る

ずんはあらず世人豈に學はんやこの編に屢々つぐる聖人は造物主にあらず萬物究竟の先導者たやゆゑにこの聖人は世の危難を救ひ亦その諸災を退治することを教へ依然として世の亂を治めて世界中乃一切物の始中終よそ乃各々主宰あるも乃までも明細にそ乃實相をは教示せる深切あててこの故にこの聖人は上み無量劫を證し下も永劫乃ことを知見す苟も十界三種世間の主宰者たりとすこの人にして我日本國如き小世界の救難を敢へて太なてせんや宜しくその人を憑むへし既に聖人は唯我一人能爲救護と誓ひ玉へはなやなんがゆゑにその聖人をあつてなきにして是を捨くやいわずんはあらず教しへずんはあらざるや

第 貳 章

●宗教の度胸か先つ居つて國災平治の方針も定まるなり (眞實の言語見べし)
前章に於て我國家の鎮護を證する一大事その責任は佛教者其人の實力中にあてと陳じれい今亦爰に宗教家の度胸を論せんこす抑も佛教の日本に流布するその宗旨の數

十二宗にして其中にて亦分派して三十六派とされり明治已來八宗綱要といへる書本
も亦近年十二宗綱要といふ書本も出來て書肆にて賣出せし世人皆見聞せるを以て茲に
其宗旨号陣列を略省す人其知察ありたし

却説て其宗流を探究すれは全體佛教をして厭世教と究むるか多分なり亦偶々佛教は無
始本有の常住教と立義するあり曾てそれ此二点を出てされし假令十二宗三十六宗派
の宗旨かありとせるも件大段二個ありとす今更に言を換へていへし厭世教を立義とす
る類の如きは此世を穢土と嫌ふて未來淨土を欲求するもの所謂ゆる無常教これなり次
に無始常住教を立義とする類の如きと敢て淨土穢土に偏せず即ち佛意が安住し玉へる
處を以て本土とすこれを佛の本懷とし以て人に示教せるなり所謂ゆる常住教これなり
件に就て觀るときは現日本の佛教其有形は喋々論するまでもなき未來教と現未兼教と
の二流に判明せるものなり蓋しその淵底を探求するに現未兼教の如きは曾て世學者か
知見の届のちる重玄に位してその意は文字言語を出て實相の實理に奧入して義味ふか

いといへり記者曰く此教は文明國の要用に足れる即ち聖人が意見なすと知る
將亦未來教を探見するにあの教を流義とせるものは支那日本は出現せし人師が所依流
より成立ちたるものを習ふものにして方便を過ぎ依て義味愈よ少くして現世界に
は應用する處なきか如しその意は深て佛教をば常住とせず無常に處するか證據なり
右既證するところに就て察すれば佛教家の臆度は深しめ則度なりしもの、如しといわ
ん哉

それ封建政良には厭世教か適したることありしとかも明治維新郡縣政度に改まつて
よりの大いに我其 御國體王法を尊重するか勿論文明聖世となつて見れば彼の厭世的
佛教は全我 王法に適せず彌々あれか王法佛法間互ひに冥合せざる實理ありて佛宗教
者は宜しくその冥合の實相を一番研究せざるへらさる急点今日にありといわんや右
等を以て世諦學者の非難を入れて曰く佛教を難有味りかく輕賤の教へありと一世に
あつても其無きの如きの取扱振か山々あるを見る呼々國家の爲めに相哀れむといわす

んはあんそや其社會より見下す所以ん乃も乃も他あし公然に佛教か我國家乃用事に足れる其實相をば衆人の見認めされはあり此故に無宗教者口を究めていわん宗教を一般に腐敗せりといふ亦其れ甚しくも宗教の野蠻未開の時に始まるものにして文明國に不用物なぞといふ此等の嫌疑言語を世に流す子細のあることは學者君子の知見するごよろあれは所論も敢てあきか如しといへども曾て痴愚のものか許さざるころあれば必ず忽せにせず此理わりを有智無智に示し以て現事國災連々この難病を根治するの義務急用をと宗教者一般身意に帯ひて釋迦世尊へ安慰を呈し以て報國深忠の其誠意を大ひよして外教にも劣知せられざる實地を天下に熟知せしめんことを望ましき所とし是を記者が精意として世の智學の人にこれを訴ふといふなりそれ國家人を擁護する神明佛陀の所在を知り亦之を取扱ふ佛教者其人として現事天下に競起所の天地災天不祥之難を傍視して可きらんや此治術を施さずして誰れか此を拂擻するや望みずんばあらす懐もはずんばあらざるなり神道部其行をする人は且らく捨きて佛教其取扱をなす

人か前面に彼の三世了達の聖人の意見を押し是を實行せば政て此事業は難よして易ならんや宗教學者一般にその度胸をば先づ居へずんばあらすあれこの問題の起首する所以んなり是即聖人の物語りとす此奥は次編に譲る

記者別言

佛教を學する人の思想に於ける全體に釋迦氏が本懐を捨て其宗門を起したる祖師人師開山か方便をば信じてその意脈を續き宗論を逞ふて甚しきは天下の公裁を訊ふなんこのことの明治世に及んでも度々ありてあるか如きは即佛教をば私くこのも乃として世界のものとあはわさるは挾隘卑屈に陥入れるもの、如しこれ完く本師釋迦聖人か未に出世の本懐を知らず實際佛教乃大體を未だ押かざる妄愚の所爲といわざるを得ず宜しく釋迦本師の悪名なきに注意し將亦社會の不爲を存察し以て十分國家に足れる法相をば此際顯出して報國の分を振起あてたく望むところなり此奥は次編よゆつる

● 天地國土の災禍頻繁なるは文化の邪魔なり

● 神佛の加護乃見へざるハ宗教の隠没に起因す

抑も我國ハ法に因つて國を富榮せしめ及ひ神明佛陀カ冥慮加護に縁つて人家ともに安穩なるを得るなり蓋しこノ事實と古往より天然の著證ありて今更にいふまでもなきとながら親り無數の大小神祇鎮座し玉ひ亦無量の佛陀を安置しあるハ皆以て我國家人の御守を請ふの現證あるを明知するに足るこいわすして何ぞや然りとはいへとも近年近日の諸災不祥の多きも何等の所以ぞや不審神社の祭祀も日夜に怠らす佛陀の勤行式も敢て斜ならずといへとも時々災難を見るときハ恐れ多くも神佛の御加護なきかも疑わるゝものゝ如く眞ごに凡慮を以て測りかたし乍併日本の諸學者はこれをなんぞ鑑定するや現見の國災は文化漸進の防害にして天下一般の患難たりよれを避くるとは神佛の威力にあらざらんよでは其術あるをなきも勿論なりといへとも要するに譬へハ

病根を知らざる時ハ治療をなしかたきか如く今其國災病を愈治せしむるにもその難のおこる原因を知らされは治術に道なし神佛の冥慮を被むるにも其御所在を知りて伺ひ奉らされは樂の功の立たざるにも等しと社會の人はこれを能く探求ありたき望む處なり是れこの問題の起首する所以なり蓋しまたこの道の明了せざる其責めハ今日誰れよあるやと問へば果して日本國中の宗教の門戸を立てある其宗旨の法相を紹繼せる其人々がこの責任者たるも勿論あり所謂ゆる十日十手の指す處嚴あるのを曾て是ハ脱かるへからず是を苟も天理乃然らしむる處といふへきか亦それ大聖釋迦世尊の法相乃その實理を顯われんとする時の然らしむる所なる哉不老不死の聖人が意見を押し而ふしてこの是に今は裁判を乞わんといふの結歸に止まるが如し此一言ハ骨稽落語に似たらんが如きと聽ゆといへとも曾てしめらす宗以て文證現證道理三つの動のさる聖人が履行せる法相規律かあるとあつて一塵程も人を誑惑し亦は曲會ありのたき理のあるをとしらざるへからず所以といかんをかれハ此一段の理論が歸着する所ハ正に知るへし

忠君愛國の一大事とまた一大佛教乃興廢存没其大切とにあるを以てのゆゑに齊に述ぶる所は愈よ高尚に出て、完く其實理を誘引する深切と天地は貫徹してを懸へにあらす讀む人深く是れを推了ありたし蓋し國を守り人を護り玉へる神佛か其御在處を伺ひしらは宗教家其責任ある人け於ける唯此一点にて報國乃道と十分足れりといわん哉此大事を學者一番研究ありたし曾てこれと此れ金錢を得るよりも得がたきものなれりこれを名つけて聖人乃物語りとす餘はふにおの贅言せんや唯た我國家をれもふの其一事のみ

第 肆 章

● 聖人出現の實地を語る

本書始中終に語る其聖人よ於けるや即如來秘密神通之力と釋迦説にいたせるこれ其聖人の事にして此聖人には數多の名義ありとすこの人をしられれば一切有情非情國土世間等の起盡をしるを得へからざるものなり此聖人は萬物を造る人にはあらざるを

るへし今世日本國の佛學者が一般おれをあつてなきにする不忠不義の非禮ありそれか原因とあることを人皆おれをしらざるへからす尋て國家乃不祥とされより影響するものなりそれ我國家をれもひ而ふして將來外教に耻笑を取らざる用心は唯この点にあるとぞを知るものなり將亦文化日進の時なれと宜しく邪正我慢を自己より糺明し以て文明の布教を實地に以てんとせば記者は大ひに望むものあり佛學者はおれに感あらんや否や却説て件證する聖人は常に常寂光の義在し一念三千乃實相に居て出現し玉わす世界に出て王へる時は十界地獄。餓鬼。畜生。修羅。人間。天上。聲聞。緣覺。菩薩。佛界。衆生か出揃ふたる時にして僅かに人界一部上乃世間には尊容を現し玉はす蓋し種熟脱の三益は必ず約束を違へず其有縁の衆生に對して四八の尊貌を現し玉ふあや而みしてこの聖人みづから出て玉わさる時は舍利と(佛像)經文と遣使還告の聖人(此聖人は普通の聖人のことなり)を派出させ玉へるありこれをは四依と稱して小大權實迹本と次第に代理か派遣あるも乃あや蓋し正像末とて聖人滅後弘通の順序付屬の次第順を以て四依の菩薩か御使に出るものにして四依の人の外

には弘教を許さず意へ付属のある人に限るといふ事なり右等の事實につけて天竺支那日本三朝弘教の形を宣へさるへからず然りといへともあれを陳するときは教相と論師人師との區別宗々の興廢をもいひわさるへからず大ひに多端に渉ることゆゑに此次貳編に引ひて是れをのふへし爰に畧省す却説て既説の如くに舍利と遺經と遺使の四依と三個か規律して正像未その三時弘教正に有縁の衆生に快く照利すると佛在世の如く劣らさると其法力と佛力と信力とよく完くよれり即聖人の慈悲にいでしに相違ないといふ衆生も是れを疑わさるあり然りといへとも今世をみるに其聖人か化導の始中終混亂して過時と正時との教法順序あるを私に曲會して或は邪を以て正を打ち權を以て實を押し小大權實迷本紛争して互ひに當をみさるの有形まへ即大集經の豫言の如き闕諍言詔白法隱沒損滅堅固のときと告げたるそは今日のおとにもあるかとも思はるへきなり其上に衆機一同に邪智謗法を究めて信心を削つて年々月々日に法滅の風烈しく稍々法力も佛力もその威光なきか如し爰を以て我國の守護神の勢力を失ひたまへるに至り

ためよ國家に日々無宗教のものも數多になつて神佛を無視すれども宗教者は實教を布施せざるゆゑに其敬禮を失ふ終ひには天地災天國家不祥の難はのすく競起つてこれをは退治する乃道をもわさまへさる旁々今日は不幸の世柄のなりゆけりこれをして上に告げ下一同にも訴告せんとする人の未出現せざるものは子細のあるもの、如しおまふのあまり此聖人の物語りをかきて時を待つ意味山々あることを讀人察了ありたし此奥は次編にゆつる

以上

聖人の物語初編畢

明治三十三年八月十日印刷
明治三十三年八月十五日發行

京都市上京區法皇寺町拾九番戶內第六號

著作人

驥尾日守

岩代國伊達郡大久保村字馬城內三番地

發行人

高橋房藏

全 全 青木村字林陰拾三番地

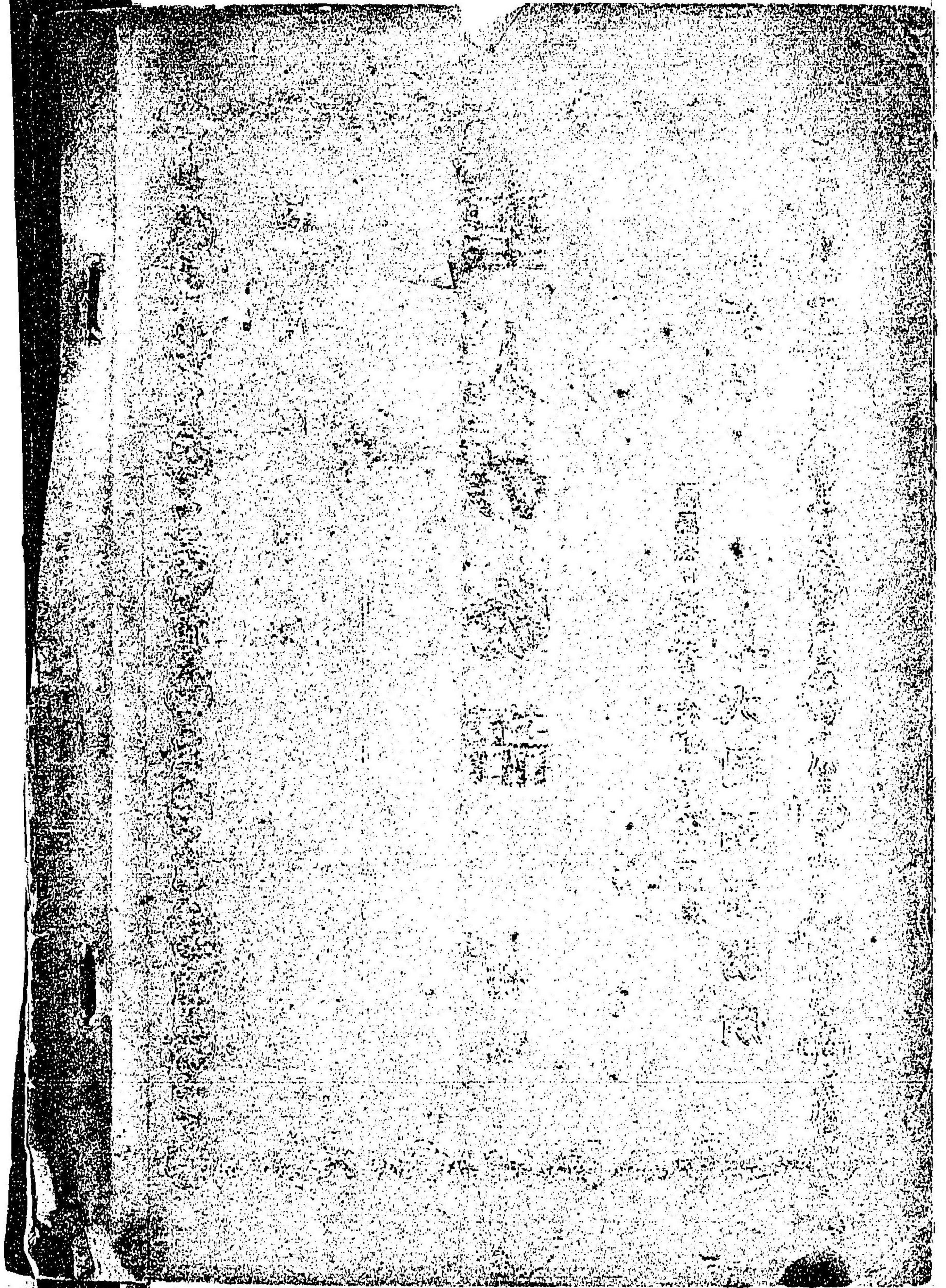
發行所

玄宗大同團事務所

福島縣福島市荒町七番地

印刷人

山口巳之吉



特67
404

019972-000-4

特67-404

聖人の物語

驥尾 日守/著

M33.8

ABH-0126

